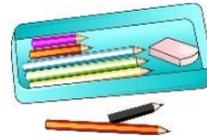


家庭学習の意義

家庭学習によって次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容が確かなものになる

学校で学習したことを家庭で復習することにより、学習内容の習熟・定着を図ることができます。特に、漢字や計算は毎日繰り返し練習すると効果的です。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。まとめてたくさんやるより、少しずつでも毎日続けさせてください。



② 学習習慣が身につく

少しずつでも継続することで大きな力となります。低学年のうちから毎日家庭学習を続けることで「家庭学習するのはあたりまえ」を定着させてください。



③ がまん強さ・根気・集中力がついてくる

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことでがまん強さ・根気・集中力を養うことができます。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力がが必要です。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書の時間をしっかり確保してください。

④ 家族のふれあいの場にもなる

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。「本を読んでいる時、横で聞く。」「勉強がわからない時、教えたり調べたりする。」など、家庭学習をしている子どもに保護者が関わることでコミュニケーションをはかってください。

家庭学習のポイント、保護者の役割

保護者の心構えや関わり方で家庭学習の成果も変わってきます。子どもの学習意欲が高まるようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日学習する

家庭学習を習慣づけるためには、毎日決まった時間に学習することが大切です。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思いますが、家族で十分話し合い実行してください。



② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。「家庭学習の方法」に記しています各学年の学習時間を目安に学習します。学校では、学年に応じた宿題を毎日出しています。宿題が終わっても時間が残っている時は読書・リコーダー・自主学習等に取り組むよう言葉かけをしてください。

③ 学習環境を整える

整頓された机に向かってよい姿勢で学習するようにします。テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえたり、マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあったりしては学習に集中できません。落ち着いて学習できる環境づくりに努めてください。



④ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

保護者や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることによって自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。口うるさく言ったり間違いをきつくしかったりすることは逆効果になります。子どものがんばりを認め、ほめて励ましてください。

自主学習参考例（5・6年生）

国語

- 音読、暗唱、朗読・・・詩や俳句、教科書を情景を思い浮かべながら感情を込めて読んだり、暗唱したりしましょう。
- 漢字・・・正しい書き順やとめ、はね、はらいに気をつけて正確に文字が書けるようにしましょう。
- 作文・・・新聞やニュースから興味ある事柄をみつけて意見文を書いてみましょう。

算数

- 計算・・・分数や小数のかけ算、わり算が正しくできるように練習しましょう。
- 文章問題・・・問題を作ったり、自分の考えを図や式、言葉、文で説明できるようにしましょう。
- 算数探し・・・生活の中で算数が使われていたり、役立っていたりすることを探してみましょう。

社会

- 歴史・・・人物や時代の特徴を調べてみましょう。
- 世界・・・テレビや新聞に出てきた国名や地名を地図で確かめたり、主な大陸と海洋、国の名称と位置などを覚えたりしましょう。
- 政治・・・三権分立などの社会用語のだいたいが説明できるようにしよう。

理科

- ものづくり・・・学習したことをいかして、おもちゃや役に立つものを作ってみましょう。
- ふり返り・・・学習して分かったことや考えたことを説明できるようにしましょう。

その他

- 物語や詩の本、科学などいろいろなジャンルの本を読みましょう。
- 好きな運動遊びやスポーツをしましょう。

